

令和6年度
高知市男女共同参画に関する市民の意識調査
報 告 書
【概要版】

令和7年7月
高知市市民協働部
人権同和・男女共同参画課

調 査 概 要

- 調査目的：高知市民の男女共同参画への意識、浸透度の現状把握を行い、次期プラン策定に向けての指標とすることを目的に、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施した。本概要版は、令和6年11月に実施した調査の結果を広く市民の皆さんにお知らせし、男女共同参画に関する認識を深めていただくため、作成した。
- 調査対象：満18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）（女性1,620人、男性1,380人）
- 回収状況：有効回収数872人（有効回収率29.1%）
- 調査方法：郵送及びWEB調査法
- 調査期間：令和6年11月8日～令和6年11月28日
- 実施機関：高知市人権同和・男女共同参画課

※グラフの読み方

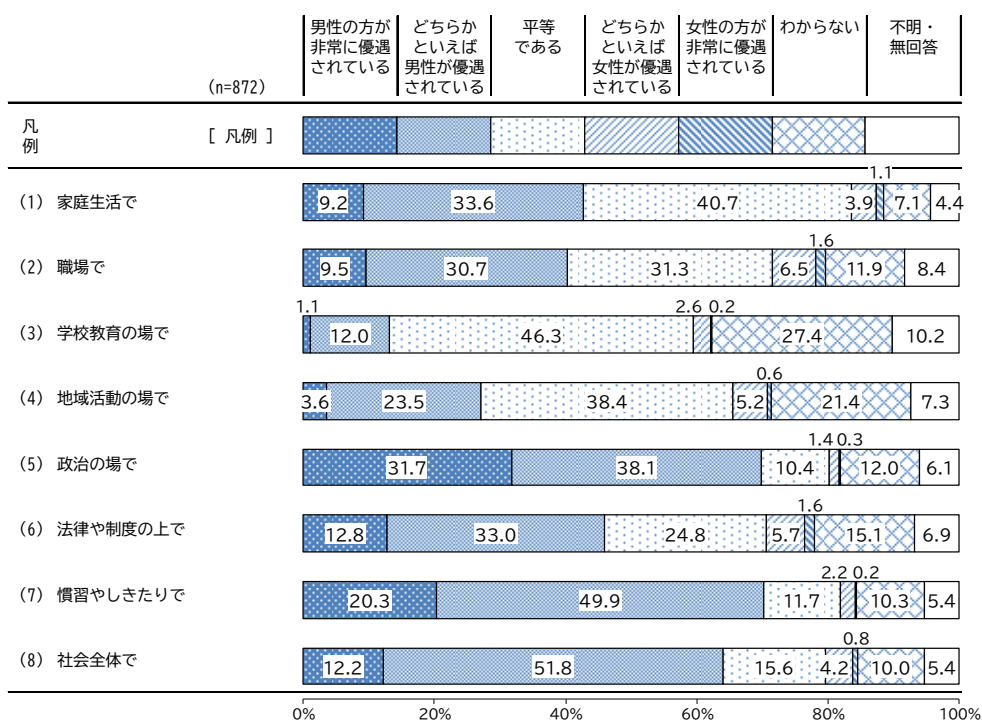
- ・nとは、回答総数（あるいは分類別の回答者数）のことである。
- ・回答率（各回答の百分率）は、nを基数として算出し、少数点第2位を四捨五入した。このため、個々の構成比の合計が100.0%にならない場合（99.9%、100.1%など）がある。
- ・複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。なお、複数回答を求める質問についての図表上の表記は、以下のとおりである。
「MA%」（Multiple Answer）＝回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択
「3LA%」（3 Limited Answer）＝回答選択肢のなかからあてはまるものを3つ以内で選択
- ・比較対象としている「前回調査」は「令和元年度 高知市男女共同参画に関する市民の意識調査」である。

男 女 共 同 参 画 に 関 す る 意 識 に つ い て

●男女の地位の平等感

男女の地位の平等感について、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた“男性優遇”が最も多いものは「慣習やしきたりで」（70.2%）で、次いで「政治の場で」（69.8%）、「社会全体で」（64.0%）となっている。「平等である」が最も多いのは「学校教育の場で」（46.3%）となっている。

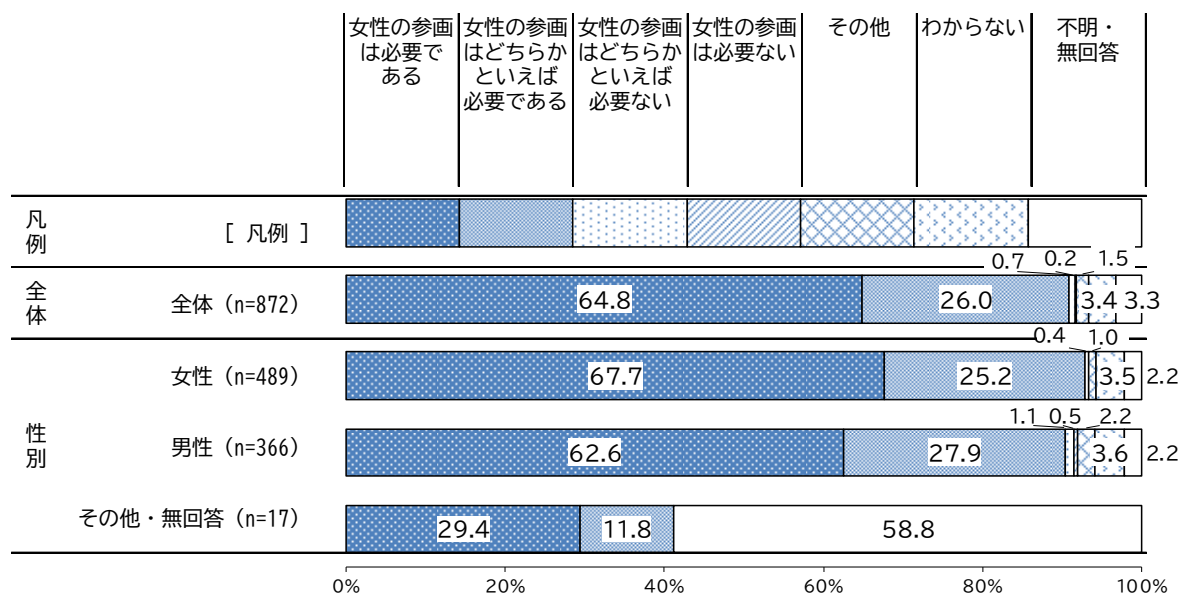
【男女の地位の平等感】



●意思決定の場に女性が参画することについての考え

意思決定の場に女性が参画することについての考えについて、「女性の参画は必要である」が 64.8%で最も多く、次いで「女性の参画はどちらかといえば必要である」が26.0%、「わからない」が3.4%となっている。「女性の参画は必要である」「女性の参画はどちらかといえば必要である」を合わせた“必要”は90%を超えている。

【意思決定の場に女性が参画することについての考え】



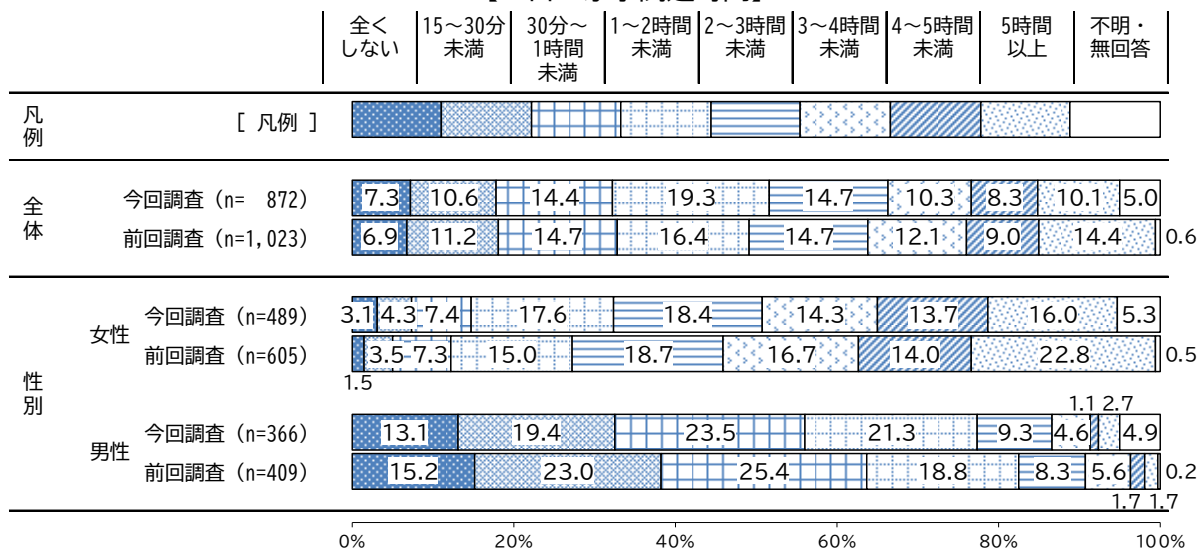
家庭や職場における男女共同参画について

●1日の家事関連時間

1日の家事関連時間について、「1～2時間未満」が19.3%で最も多く、次いで「2～3時間未満」が14.7%、「30分～1時間未満」が14.4%となっている。

性別でみると、女性では2時間以上の合計が今回調査では62.4%と前回調査の72.2%より約10ポイント少なくなっているが、女性は「2～3時間未満」、男性は「30分～1時間未満」が最も多くなっている。

【1日の家事関連時間】

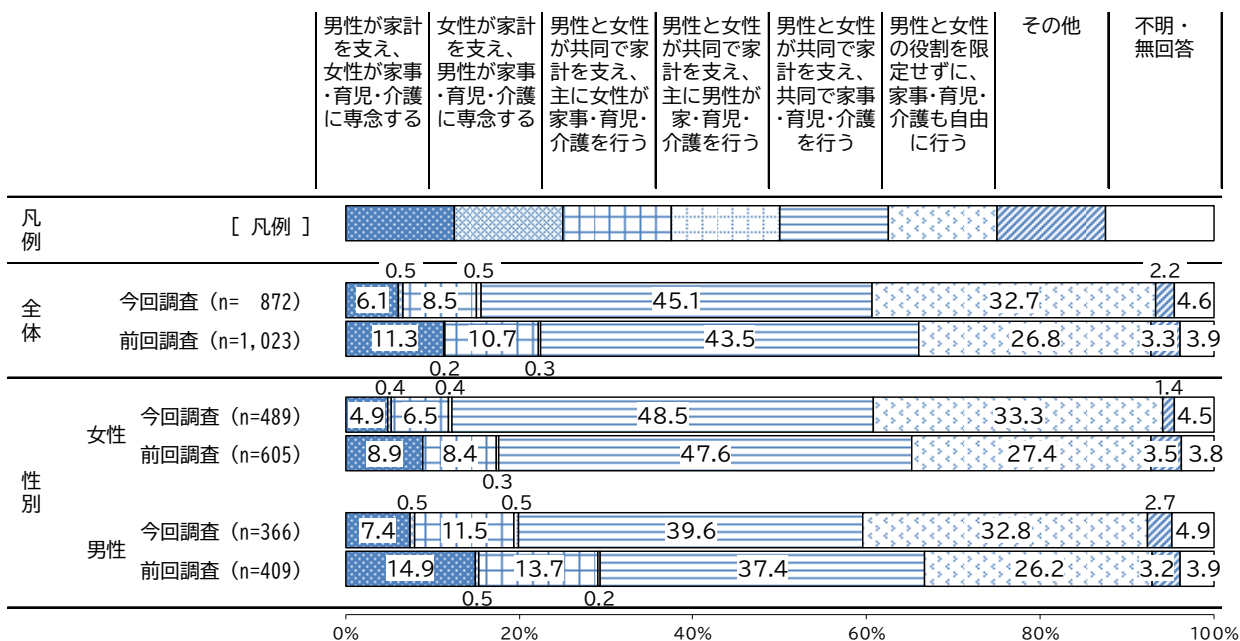


●理想とする家庭における男女の役割分担

理想とする家庭における男女の役割分担について、「男性と女性が共同で家計を支え、共同で家事・育児・介護を行う」が45.1%で最も多くなっている。前回調査と比較すると、今回調査は前回調査よりも「男性が家計を支え、女性が家事・育児・介護に専念する」が5.2ポイント少なく、「男性と女性の役割を限定せずに、家事・育児・介護も自由に行う」が5.9ポイント多くなっている。

性別でみると、「男性と女性の役割を限定せずに、家事・育児・介護も自由に行う」が女性で5.9ポイント、男性で6.6ポイント前回調査よりも多くなっている。男性は「男性が家計を支え、女性が家事・育児・介護に専念する」が7.5ポイント前回調査よりも少なくなっている。

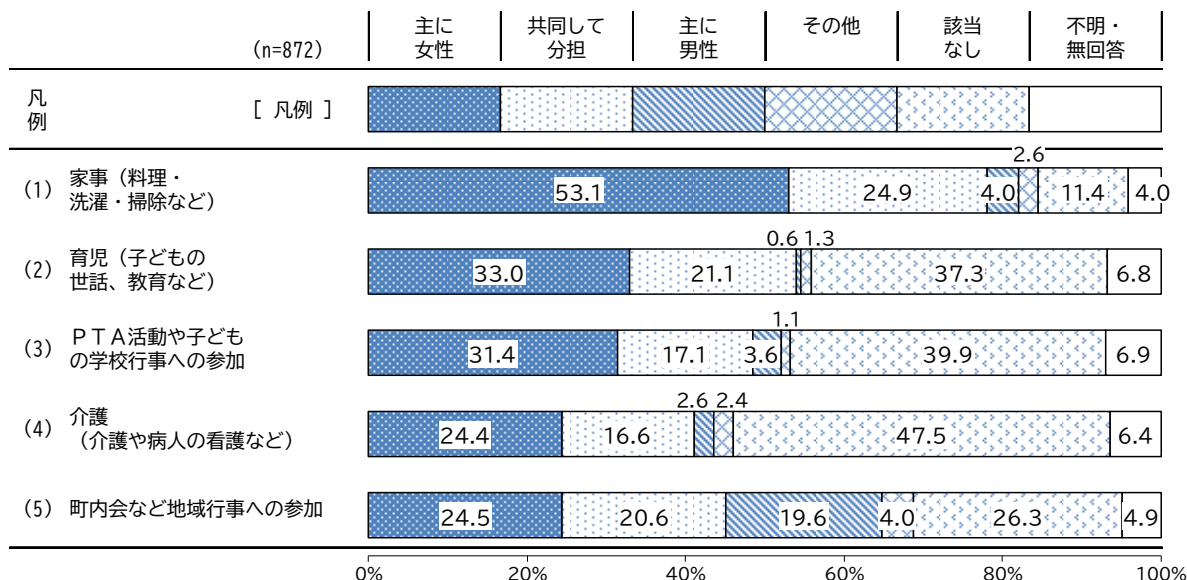
【理想とする家庭における男女の役割分担】



●実際の家庭における役割分担

実際の家庭における役割分担について、「主に女性」の割合が最も多いものは「家事（料理・洗濯・掃除など）」で53.1%となっており、「該当なし」を除くといずれも「主に女性」の割合が多くなっている。

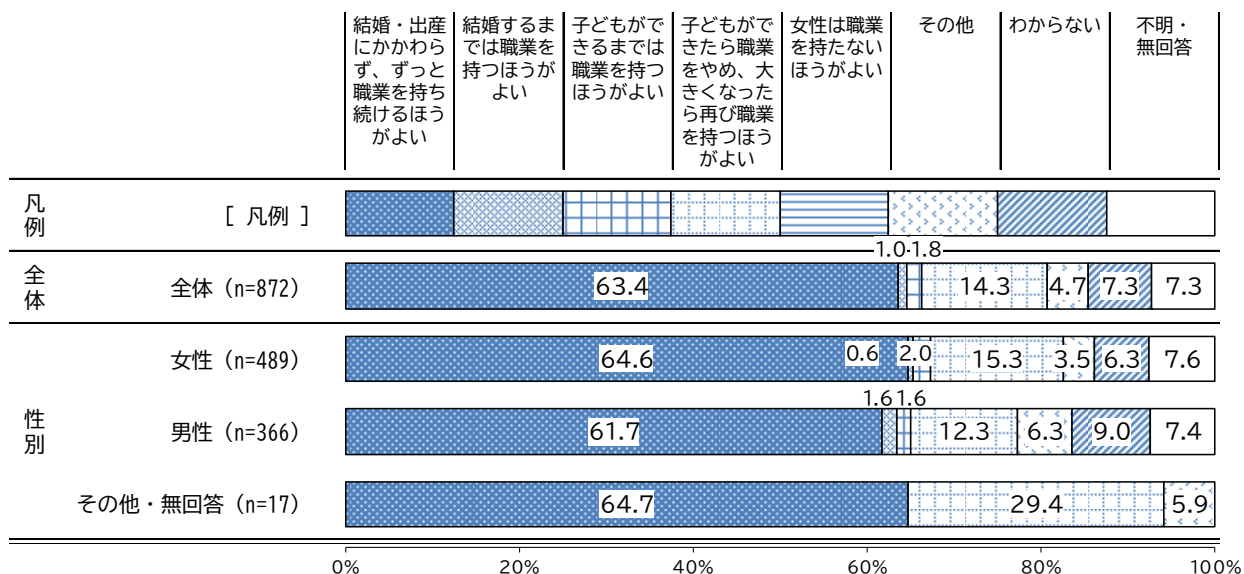
【実際の家庭における役割分担】



●望ましい女性の働き方

望ましい女性の働き方について、「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が63.4%で最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が14.3%、「わからない」が7.3%となっている。

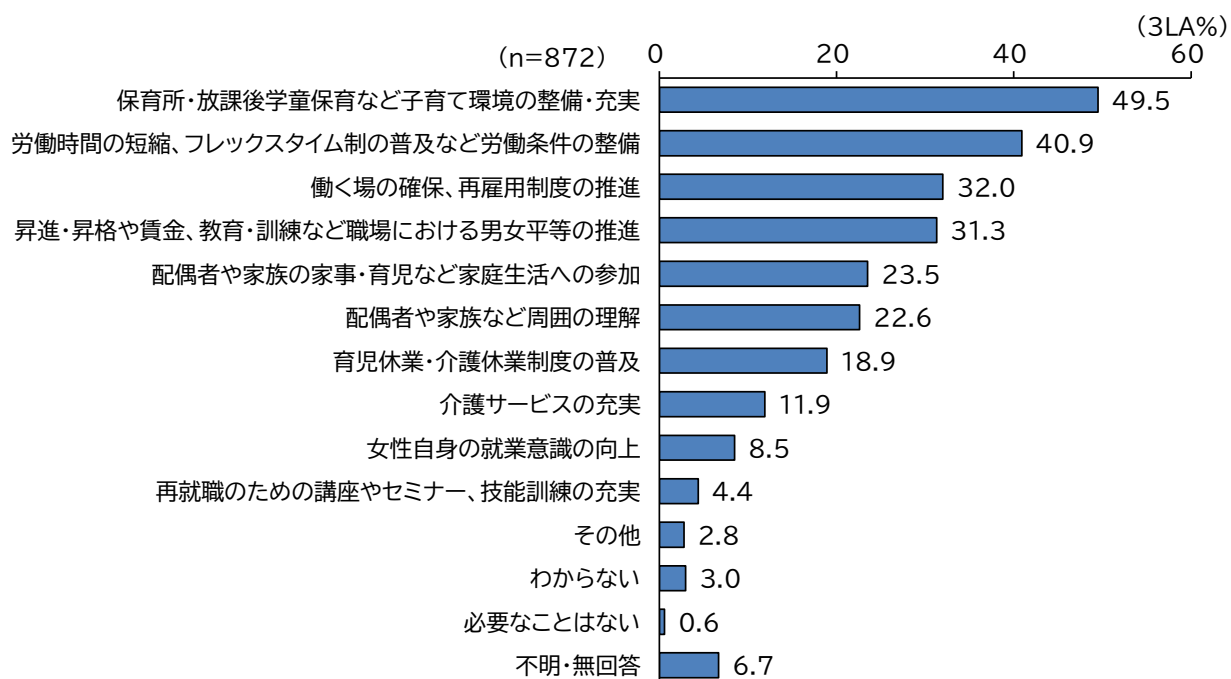
【望ましい女性の働き方】



●女性の就労継続・再就職のために必要だと思うこと

女性の就労継続・再就職のために必要だと思うことについて、「保育所・放課後学童保育など子育て環境の整備・充実」が49.5%で最も多く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制の普及など労働条件の整備」が40.9%、「働く場の確保、再雇用制度の推進」が32.0%となっている。

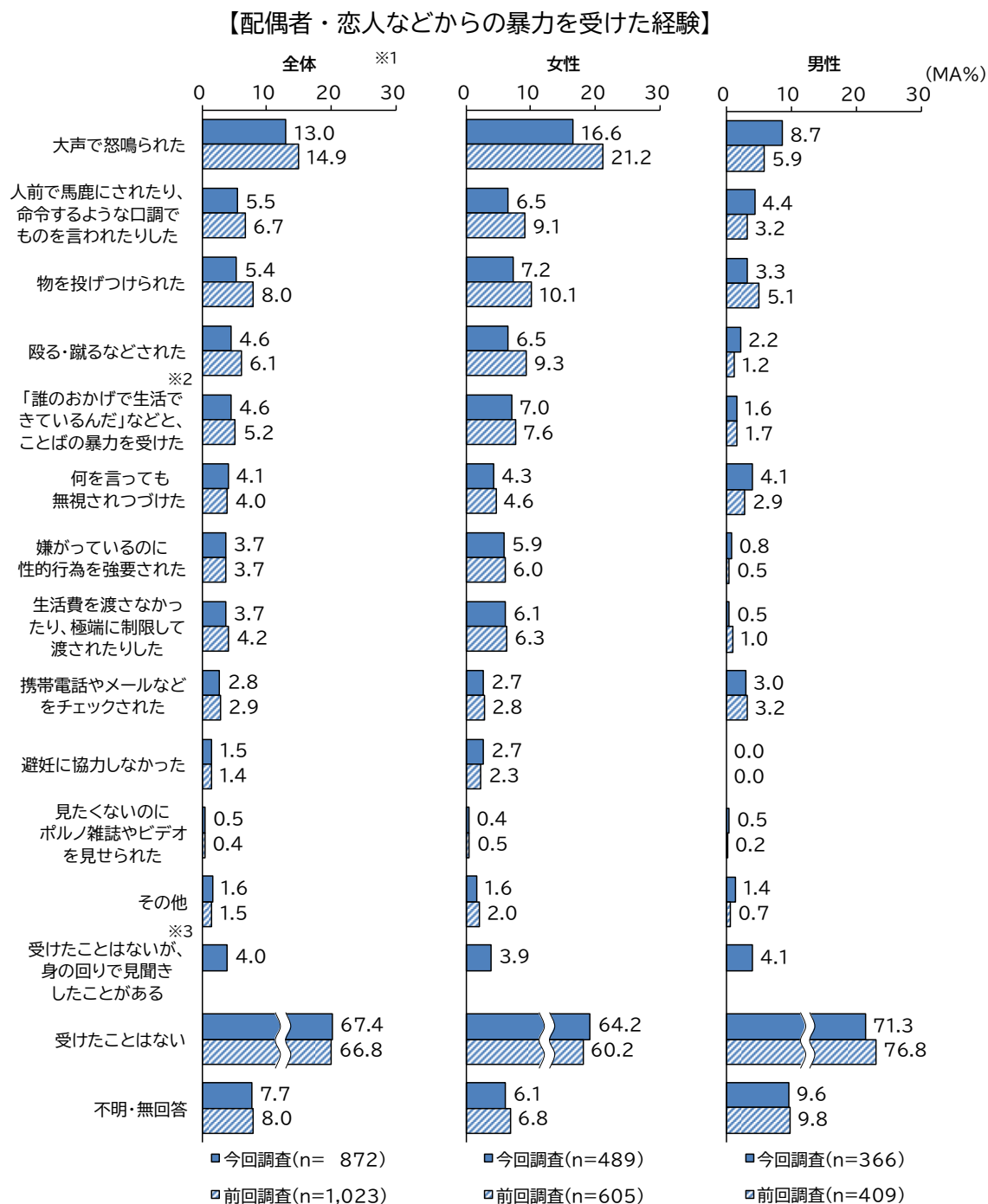
【女性の就労継続・再就職のために必要だと思うこと】



ドメスティック・バイオレンス（DV）について

●配偶者・恋人などからの暴力を受けた経験

配偶者・恋人などからの暴力を受けたことのある人の割合は全体の24.9%となっている。男性は「受けたことはない」が約6ポイント前回調査より少なくなっており、19.1%が配偶者・恋人などからの暴力を受けた経験があると回答している。男女とも「大声で怒鳴られた」が最も高くなっている。



※1 今回調査の全体、性別集計には10代(9件)が含まれる。

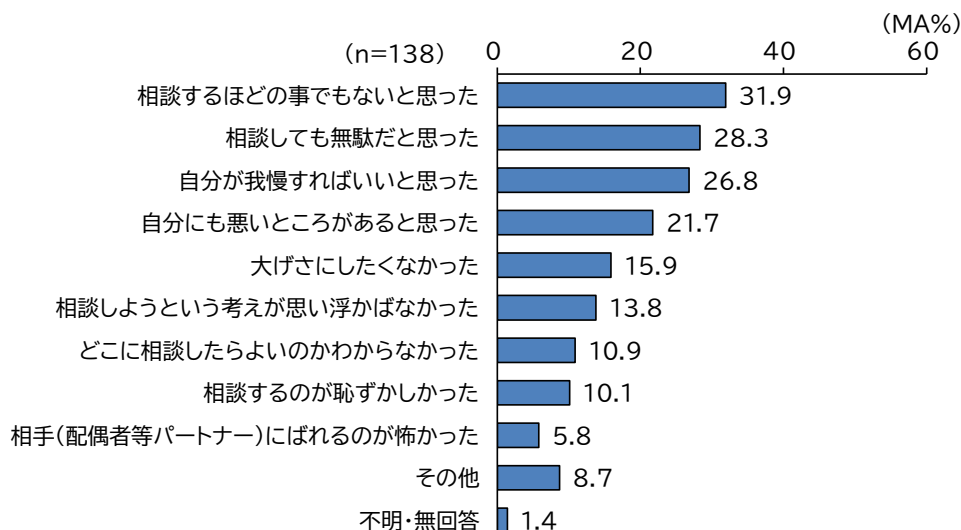
※2 前回調査の選択肢は「『誰のおかげで生活できているんだ』『甲斐性なし』などと、ことばの暴力を受けた」

※3 今回調査のみの選択肢

●配偶者・恋人などからの暴力を受けた際に相談しなかった理由

配偶者・恋人などからの暴力を受けた際に相談しなかった理由について、「相談するほどの事でもないと思った」が31.9%で最も多く、次いで「相談しても無駄だと思った」が28.3%、「自分が我慢すればいいと思った」が26.8%となっている。

【配偶者・恋人などからの暴力を受けた際に相談しなかった理由】

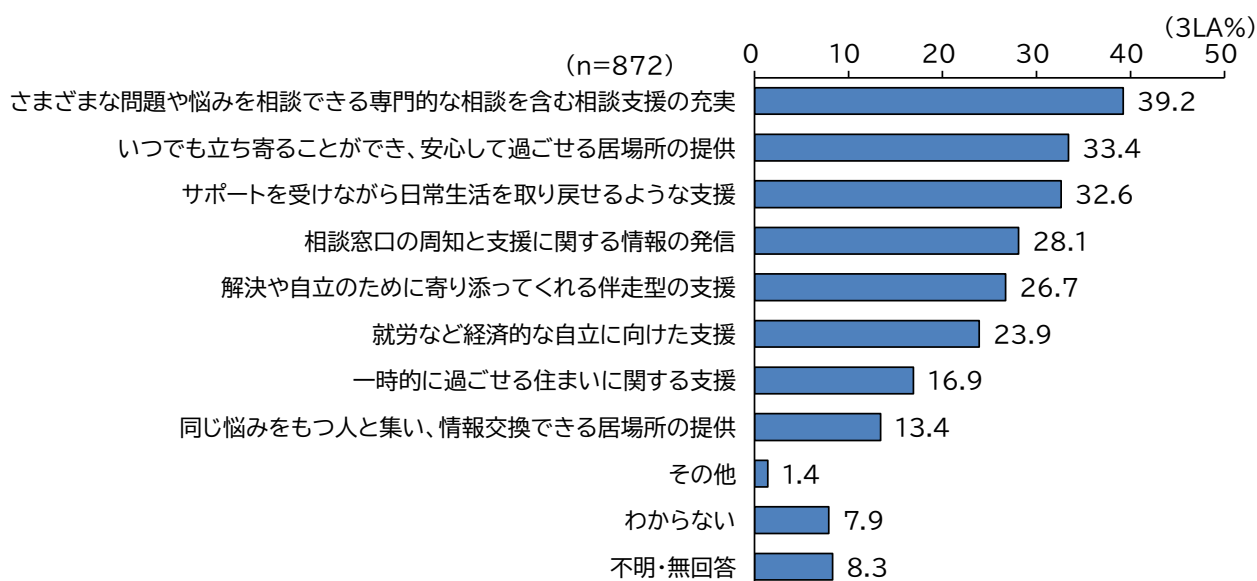


困難を抱える女性への支援について

●性暴力等の解決に向けてあればよいと思う支援

性暴力等の解決に向けてあればよいと思う支援について、「さまざまな問題や悩みを相談できる専門的な相談を含む相談支援の充実」が39.2%で最も多く、次いで「いつでも立ち寄ることができ、安心して過ごせる居場所の提供」が33.4%、「サポートを受けながら日常生活を取り戻せるような支援」が32.6%となっている。

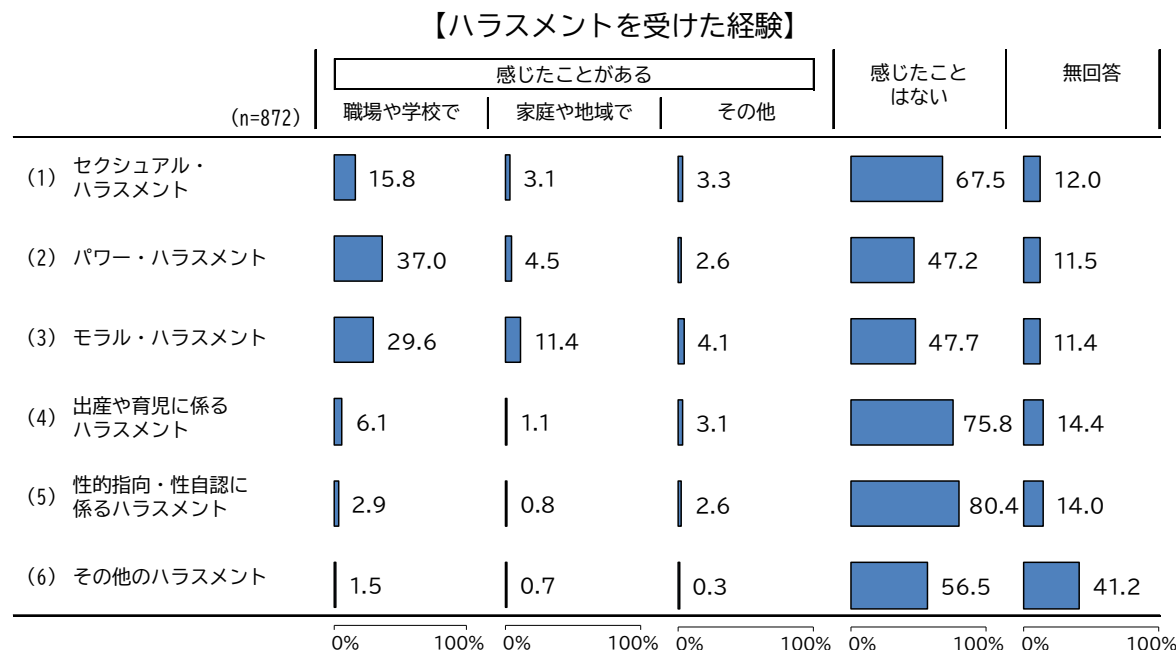
【性暴力等の解決に向けてあればよいと思う支援】



ハラスメントについて

●ハラスメントを受けた経験

ハラスメントを受けた経験について、職場や学校で「感じたことがある」の割合は、「パワー・ハラスメント」で37.0%、「モラル・ハラスメント」で29.6%、「セクシュアル・ハラスメント」で15.8%となっている。

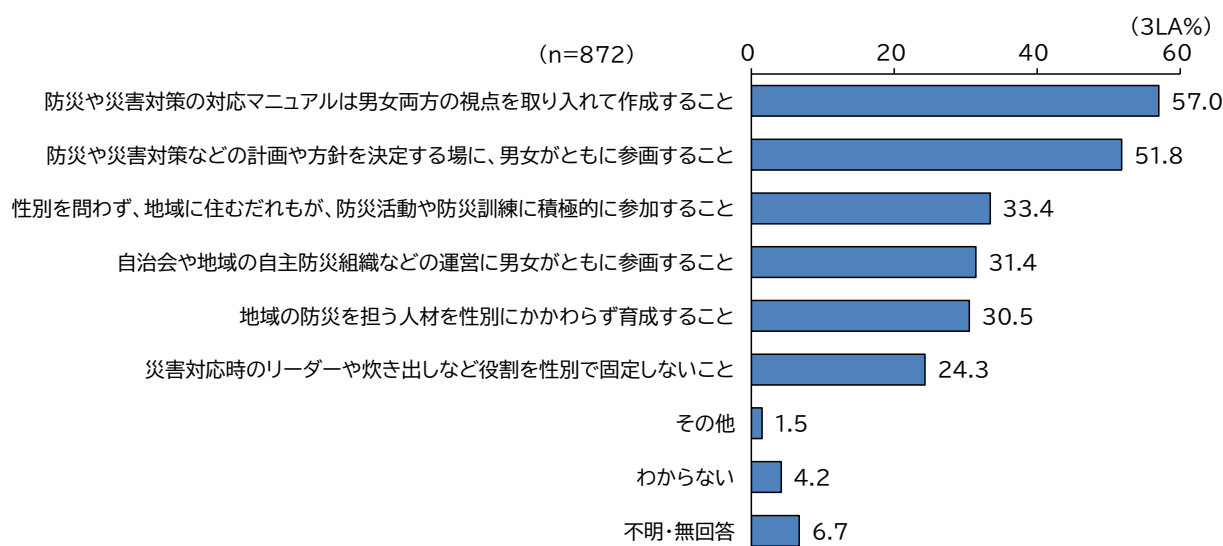


防災分野における男女共同参画について

●防災分野における男女共同参画を進めるために必要だと思う取組

防災分野における男女共同参画を進めるために必要だと思う取組について、「防災や災害対策の対応マニュアルは男女両方の視点を取り入れて作成すること」が57.0%で最も多く、次いで「防災や災害対策などの計画や方針を決定する場に、男女がともに参画すること」が51.8%、「性別を問わず、地域に住むだれもが、防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」が33.4%となっている。

【防災分野における男女共同参画を進めるために必要だと思う取組】



高知市の男女共同参画への取組について

男女共同参画社会実現のために必要な取組

男女共同参画社会実現のために必要な取組について、「必要」の割合が最も多いものは「保育や子育て支援におけるサービスの充実」(67.8%)、最も割合が少ないものは「その他」を除くと「出前講座や学習会など、男女共同参画についての学習機会の提供」(28.9%)となっている。「必要」の割合が50%以上のものは他に「高齢者に対する介護サービスの充実」「学校での男女平等教育の充実」「女性に対する暴力の根絶・防止に向けた取組の強化」「相談事業の充実」となっている。

【男女共同参画社会実現のために必要な取組】

